

## 報告要旨

研究会「インターセクショナリティとジェンダー視点の主流化ーバングラデシュ地域研究から」2023年7月28日（金）

報告「少数民族ガロのクリスチャン・コミュニティにおける女性への差別の複合性と交差性」  
報告者 上澤伸子 目白大学

本報告の目的は、バングラデシュの民族的、宗教的に少数派であるガロの人びと、とくに女性を対象として、クリスチャン・コミュニティ内部にある複雑な差別と抑圧を明らかにすることである。具体的な事例として、男女間の「問題」をとりあげる。

ガロ母系社会は、おもに親族、教会、NGO という3つの社会組織によって支えられている。ガロ社会で男女間の「問題」が起きたときには、教会に関連する「問題」は教会によって、それ以外の「問題」は母系親族集団によって裁かれる。両者の規範に反する2つの事例をとりあげ、ガロ社会においてキリスト教と母系制という2つの変数がいかに交差しているのか、また近年、それ以外の変数が加わった可能性はあるのかについて考察する。結果として、母系親族集団による罰が証拠となって教会でも罰せられること、つまり当事者は二重の「制裁」や「恥」を受けていることを示す。